文學士 橘 純一 編

教科定本

大鏡

（大鏡通釋對照本文）全

東京 瑞穗書院刊

昭和十年十二月十日　初版發行
昭和十三年一月二十五日　四版發行
昭和十三年二月二十五日　五版印刷
昭和十三年三月二日　五版發行
昭和十五年二月十五日　六版印刷
昭和十五年三月十五日　六版發行

教科書定本　大鏡（挿註大鏡通釋本文）

〔定價金壹圓〕

著者　橋純一
發行者　古澤俊
東京市大森區久ケ原町二九五番地
印刷者　五十嵐英次
東京市牛込區早稲田町四五番地

高橋製本所製本

發行所　東京市大森區久ケ原二九五番地　瑞穂書院
電話池上三六二二番
振替東京四四九九〇番

一手賣捌所　東京市神田區錦町三番地　慶文堂書店
電話神田(25)一四七〇番
振替東京二八五三三番

東京・國文社印行・早稲田

例　言

一、本書は前年刊行した拙著、挿註大鏡通釋と對照に便する本文として編したのである。

一、本書は、佐藤球氏著大鏡詳解の本文を底本とし、千葉胤明氏所藏本（三卷本の一部、古典保存會複製）、岩波文庫本（尾張德川家所藏、應永九年奥書古寫本に據り、和田英松博士の校訂せる活版本）、久米幹文博士の校訂本（明治二十四年刊、八卷板本）、流布板本（三鏡同刊の無刊記八卷整板本）、史籍集覽本、國史大系本等を參照し、本文の異同ある部分は、宜しと信ずる所をとつた。

一、本書本文中、〔　〕を以て圍んだ部分は、多くは千葉本・岩波本等、古本系統に見えぬ章句であるが、學習用本文としては、これを除かずに讀んだ方がよいと思はれるものである。尤も、古本系統に見えぬ章句でも、寧ろこれある方がよいと考へられ、且それが長文である場合には、〔　〕を省いた部分もある。又〔　〕を以て圍んだ部分は、多くは後人の註記の攙入と思はれる部分である。これらについては、大抵通釋の方にことわつておいたが、今、此の本文のみを讀む人のために、この事をいつておく。

一、本書の欄外のゴチツク活字の數字は、其處の本文に該當する通釋の頁を示し、本文語句の傍に「註」の

字があるのは、通釋の方に該語句の挿註があることを示し、語句の傍にある（　）で圍んだ一二三等の數字は、通釋の相當頁に於ける欄外摘出語句と照合し、直に該語句の譯の所在を知り得る爲である。

一、本書の本文の前に、語句索引（本文と通釋との對照）を附けた。索引等は卷末に附けるのが通例であるが、卷末にあると、讀者に閑却されがちであるから體裁に拘泥せず、この位置につけた。

此の語句索引は、通釋に於て、譯語や譯し方に、特に讀者の注意を願ひたい語句を摘出したものを、五十音に配列したのである。但し、通釋に於て挿註を施した語句は、既に通釋の卷末に索引を附しておいたから、それは本書では省略した。その內、和歌だけは、本書の索引中にも取入れた。

此の語句索引は、語句の意義の的確なる理解に對する階梯として作製せられたのである。語句の意義はその語句の多數の用例を一時に並べて讀み味ふ事、及びその個々の用例に妥當な譯語が與へられる事によつて、最も正當な理解が庶幾せられる。本書の索引は此の二つの要求を滿たさうといふ意圖を持つ。故に或る一つの語について、その用ひられて居る場合を可及的多く指摘するに努めた。本索引中、用例指摘數の多いものを左に少々擧げて見る。

やがて……36　給ふ（下二）……31　あさまし……29　あはれなり／あはれに……25

ども（接尾辭）……21　さて／さても……20　いと……17　いで／いでや……17

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook

何の同じ何……16
かしこし……15
いみじ……12
なほ……11
さりともさりともと……16
うるはし……14
便なし……12
やむごとなし……11
うち（接頭辭）……15
大方……14
申す……12
より（を・に・ニ相當スル意）……11
まゐる……15
たてまつる……14
ただ……12

右の如くで、このうちには、現代語としても用ひられてゐる爲、學習者が格別注意もせずに看過しさうなもので、而も現代語とは微妙な意義の相違を持つ語と、又、下二段の「給ふ」、何々の同じ何々（例へば「昨日の同じさまに」トアル如キ、現代語デハ「昨日と同じさまに」トイフベキ所デアル）「より」の如き、純粹の古典的の語句とがある。讀者は、此索引によつて本書本文の上でそれらの語句を讀み味ひ、譯と對照して比較的妥當な譯を知り得て、古典讀解の基礎的な力を得ることが出來るであらう。而して、同一語で、著しく異なつた數義を持つものについては、同一意義の用例を一括して並べておいた。例へば「まゐる」といふ語についていへば、「伺フノ意」三例、「召上ルノ」意」五例、「飲食物ヲ供スルノ意」三例、「格子ヲ上ゲルノ意」三例、「格子ヲ下ス意」一例といふやうに、各別にその用例を指摘してある如きである。

かやうな編者の意圖を空しうせられず、讀者各位がこの索引を活用されむことを切に希望する。

昭和十年十月十五日

橘　純一識

凡例

一、語句の排列は、固有國語は歴史的假名遣で、漢語原の語は、發音的假名遣で、五十音順によつた。但し語頭の音以下では、必ずしも正確に五十音順になつてゐるとは限らない。それは、同類の語をなるべく並べることにした爲である。例へば、「は」の部で、「は」(感動助詞)の次に「はとよ」といふ連語を並べ、その次に「拜す」が置かれてゐるやうな場合もある。

一、語句は、通釋の欄外に摘出したもの、即ち又、本文に出てゐる形をそのまゝとらず、多少整理を加へて索引に收めた。例へば、或用言が、本文及び通釋欄外には連用形で出てゐるものを、索引では終止形にして收めた類である。又、動詞形容詞の諸活用形や音便形を一括して、「何々諸形」と標出したものもある。

一、語句の下の日本數字は、本文の頁數、その下の洋數字は行、その下の日本數字は通釋の頁數、その下の(　)で圍んだ日本數字は通釋の欄外摘出の番號であり、且譯文中の傍につけてある照應符號である。

あ

本文　行　頁　通釈　頁　符

あかく　九・9　一五三(ホ)
あがまゝにす　一〇・9　一九八(ロ)
あからさまに　九・14　一四九(ニ)
あからめ　一〇・12　一三七(ホ)
ありての代　一六・7　四〇(ニ)
ありてもあるかな　一五・11　一四七(ホ)
あかれ〳〵　一三・13　一六五(ホ)
○秋になる(歌)　一三・14　一六三(ニ)
惡馬　一五・6　八六
あく所に惡心　一六・2　一三九(ホ)
あぐ(敬ニイフ)　一七・3　一〇七(ロ)
あごよ　一六・12　一八〇(ニ)
　　一九・1　一五三(ホ)
　　二一・8　一五(ホ)

あさましノ諸形
一・6　二(ニ)
一〇・12　一三六(ホ)
四・4　六(ニ)
一五・4　一九(ホ)
六・13　九(ホ)
二・2　九(ホ)
六・9　九(ホ)
一六・14　一〇五(ニ)
七・9　一〇七(ホ)
一四・11　一〇(ホ)
一七・8　一〇(ホ)
九・4　一二(ホ)
一一・10　一六(ニ)
九・6　一四五(ニ)
九・2　一三五(ニ)
一〇・4　一五五(ホ)
一〇・8　一六(ホ)
一四・7　一八(ホ)
一四・5　一八(ホ)

あしく—動詞
一六・2　一八三(ホ)
一六・1　一三三(ニ)
一六・7　一七六(ホ)
一六・12　一七六(ホ)
あしくも通るかな　一一・10　一七(ホ)
あしくさす　二・8　一九(ホ)
あしくうちあぐ　一五・12　一六(ホ)
あしく打まぐ　九・8　一五(ホ)
あしくおはす　一〇・3　一一六(ホ)
汗水になる　一六・7　一〇九(ホ)
あそはす　一五・1　八四(ホ)
あそびもの　一一・5　一一六(ニ)
あたはねさま　九・2　一一九(ホ)
あたらしさ　九・6　一一六(ニ)
あたらしきさま　一一・14　一一四(ホ)
あたらしかり　一四・4　一一六(ホ)
あたり　八・1　一一四(ニ)
あたり〳〵　一一・14　一五三(ホ)
あつしく　一五・3　一一四(ホ)
なりあつまる…く　一六・7　一四五(ニ)
作りあつむ　一六・12　一七(ホ)
具給へ集む　一三・12　一四(ホ)
あてさりし事かは　一三・13　一四五(ニ)
あてたがふ　一四・9　一七六(ホ)

あてに
一五・5　一一〇(ホ)
あどうつ　四・7　一六(ニ)
一一・4　一五五(ニ)
あとかはぬ　一〇・1　一四(ホ)
案内す　一六・4　一五五(ニ)
案内申す　一六・11　一〇九(ホ)
一七・10　一七(ホ)
あなかしこ　一七・9　一八一(ホ)
あながちに　八・12　一一四(ホ)
一〇・9　一六六(ホ)
あなづりごと　一六・8　一〇(ホ)
あな愛敬な　八・7　一一五(ホ)
あはそかに　一九・4　一一七(ホ)
あはひ　四・10　一六六(ホ)
一〇・9　一四一(ホ)
あはれに　一六・1　一一五(ホ)
あはれ　一五・1　一六(ホ)
あはれさ　一一・6　一四(ホ)
あはれ　一五・5　一一三(ホ)
一一・4　一七(ホ)

あはれなりノ諸形
一六・8　一五(ホ)
四〇・2　一六六(ニ)
一六・13　一一七(ホ)
一一・1　一四一(ホ)
一〇・13　一五九(ニ)
一一・4　一一〇(ニ)
一一・6　一一三(ホ)

あはれに
一・4　一(ホ)
一七・14　一五(ホ)
一七・11　一一〇(ホ)
一五・13　一五(ニ)
一五・4　一六(ニ)
一一・12　一四五(ニ)
一五・4　一六(ニ)
一七・14　一五(ホ)
一六・13　一〇九(ニ)
一七・10　一一九(ホ)
一五・5　一六六(ホ)
九・1　一四一(ホ)

九・2　一五四(ニ)
一六・4　一六(ホ)
一六・7　一五(ホ)
一六・1　一〇(ホ)
一〇・13　一〇(ホ)
一〇・4　一七(ホ)
一五・4　一九(ホ)
一〇・11　一三五
一〇・7　一一(ホ)
一〇・1　一〇(ホ)
一〇・9　一六六(ホ)
一〇・12　一六七(ニ)
一〇・4　一九(ホ)
一〇・8　一三三(ホ)
一〇・9　一六六(ホ)
一〇・1　一一一(ホ)
一〇・3　一五五(ニ)
一〇・11　一四(ホ)
一〇・1　一〇(ホ)
一九・9　一八(ニ)
一九・14　一五一(ホ)
一〇・4　一六六(ホ)
一〇・11　一四(ホ)
一〇・1　一〇(ホ)
一九・9　一八(ニ)
一〇・7　一三(ホ)
一〇・1　一〇(ホ)
一〇・4　一九(ホ)
一〇・8　一三三(ホ)
一〇・9　一六六(ホ)
一〇・1　一一一(ホ)
一〇・3　一五五(ニ)
一〇・11　一四(ホ)
一〇・1　一〇(ホ)
一九・9　一八(ニ)
一〇・7　一三(ホ)
一〇・1　一〇(ホ)
一〇・4　一九(ホ)
一〇・8　一三三(ホ)

あふことは(歌)
一六・4　一五(ニ)
あへなく　一六・4　一四四(ホ)
あへなむ　一五・5　一四一(ホ)
あへ悔りなむ　一五・6　一四(ホ)
あへらむ心地　一〇・3　一四四(ホ)
あまがけりても　一〇・11　一四四(ホ)
あまゆ　一一・1　一〇(ホ)
一九・14　一五一(ホ)
一〇・4　一六六(ホ)
一〇・11　一四(ホ)
天地にうけらる　一〇・7　一三(ホ)
あめのした(歌)　一〇・4　一九(ホ)
あやしノ諸形
九・9　一五〇(ホ)
一〇・12　一六七(ニ)
一〇・9　一八(ホ)
一五・6　一三六(ホ)
一六・3　一一(ホ)
一六・12　一六(ホ)
一四・4　一六六(ホ)
一五・7　一四(ホ)
一四・3　一五五(ホ)
一四・8　一三三(ホ)
あやにくがる　一六・4　一六六(ホ)
あやにくに　一五・7　一四(ホ)
あやまたぬ由　九・7　一四(ホ)
あやまち　一一・3　一五五(ニ)
あらがひ事　一四・8　一三三(ホ)

あらまほしく　四一・7　三五(ホ)
ありけるに　一六・14　二六(ホ)

ありがたしノ諸形
二二・11　一七(ヘ)　七二・4　二二(ホ)
七五・14　二五(ロ)　二二・11　一七(ヘ)

ありくノ諸形
四〇・3　二五(ヘ)　二五・2　二六(ハ)
四〇・10　二六(ハ)　六二・11　九四(ハ)
宥様
二五・10　一九(ホ)　二六・6　二三(ハ)
○ありとほしなを(歌)　四〇・9　三三
○ありなれし(歌)　二四・4　一七
ありなむ　七二・6　二一〇(ホ)
四一・4　二一七(ハ)

ありぬべしノ諸形
四六・10　九二(ヘ)　一四六・11　一四一(ハ)
四〇・6　三三　一四六・10　一四〇(ホ)
ありわぶ　一六・12　二六(ハ)
あるべき事　四六・10　一四〇(ホ)
あるまじき事　一六・12　二六(ハ)
四一・5　二一七(ハ)
あるまじ　四六・9　二二五(ヘ)
四六・9　二二五(ヘ)

あるまじき事
四一・1　六〇(ホ)　四二・5　六四(ホ)
六〇・13　九一(ロ)　六二・12　九六(ハ)
七・11　一〇九(ロ)　一四・5　一四六(ハ)
一六九・12　二二一(ヘ)
あるやうあり　七二・2　一六六(ロ)
あるやうこそは　一六九・10　二三一(ロ)

あれにもあらぬ　一四六・7　一二六(ハ)
袈の物　一六七・7　二四四(ホ)

い（漢字音ノあモ）
本文　行　頁　通鑑　頁　符
○遺愛寺鐘(詩)　一二・5　一五　三二・5　一五
いかゞは　三一・12　四二(ヘ)
いかゞはせか　一四・14　一四(ホ)
いかゞとこそは　一五・3　一四二(ハ)
いかゞはせさせ給む　一五・5　一六(ヘ)
いかで・いかでか・いか　一六・13　一六(ハ)
でかは　一四・2　一四(ハ)
一四・13　一四(ハ)
いかなる事にか　九・13　九(ヘ)　四・4　九六(ハ)
いかなることをがな　四・5　一〇(ホ)　一四・14　一四(ハ)
いかなるぞ　四六・6　七(ヘ)
いかにしてかは　一六・8　一四(ハ)
いかに……ぞ　一三・10　一四〇(ホ)
いかにぞ　四一・5　一四(ハ)
いかにぞやなどある　一六・12　一四六(ハ)
いかにぞや　一六・13　一〇一(ハ)
いかにも　一六・14　一一六(ホ)
一四・1　一四(ヘ)　一四・1　一四(ヘ)
一四・13　一四六(ホ)　四・4　九六(ハ)
○生きての世(歌)　六・5　一〇一(ハ)
いくさ　四・4　一四(ヘ)　四一・10　一三一(ハ)

いくそばく　一四一・12　一三一(ヘ)
生くべうも　一三一・12　一五三(ハ)
遺恨　八・6　一一六(ハ)
いさむ　一六九・14　一三一(ヘ)
いしづき　四六・7　六六(ハ)
いそがしがる　一四五・1　一四四(ハ)
いたき事かな　一四一・2　一三四(ハ)
いたはる　一四一・10　一二九(ホ)
いたりあり　九・9　一二四(ホ)
一の大納言　一四〇・3　一〇九(ホ)
一男　八・1　一一四(ハ)
一の所　一六九・2　一四四(ハ)
一の人　一四・13　一三四(ハ)
遺物の　一四一・10　一三一(ハ)
出で給へり　一四六・2　一四四(ヘ)
出てはじめ　一五・7　一六(ハ)
出て來て　一五・14　一三六(ハ)
いつかは　四六・10　四一(ヘ)
いつくしく　七・7　一〇(ハ)
いつくともなく　一四一・10　一三一(ハ)
いつくをはかり　一四一・13　一四〇(ホ)
いづこもとかに　四六・4　一四六(ハ)
いつしかと　四・5　五(ハ)
いづれと聞えさすべくもなく　一六・2　一五四(ヘ)
出ではじめ　一六・7　一六(ハ)
いづれも〜　一六・10　一三六(ハ)
九・4　一五一(ハ)

いで
一・8　一一(ハ)　四・2　五(ホ)
一五・2　一五(ハ)　一四・1　一九(ヘ)
一四・3　一六一(ハ)　一六・14　一三四(ハ)
一〇一・8　一三五(ホ)

いでなん　一六・9　一三五(ホ)
いであはれ　一四・5　一三一(ホ)
いで〜　一四・9　一四(ヘ)
六・7　九四(ホ)　一三・2　一三六(ハ)

いでや
一四・4　七(ハ)　一六・7　一五(ホ)
一六・10　一三一(ヘ)　一四・4　一三一(ヘ)
一三一・3　一三九(ハ)

いと
八・6　一一六(ハ)　一四・7　一三〇(ホ)
六六・5　一四三(ホ)　八・5　一一四(ヘ)
一三五・2　一三六(ハ)　一三七(ホ)
一四〇・7　一三六(ハ)　一四〇・10　一三六(ハ)
一四〇・4　一三一(ハ)　一四五・5　一三七(ハ)
一五一・13　一四六(ハ)　一四〇・13　一三九(ホ)
いとしも　一四七・10　一五一(ハ)
いといみじう　一四一・13　一三〇(ホ)
いとさも　一四七・13　一三八(ヘ)
いとよし　一五・5　一一〇(ヘ)
いとよき事　七・6　一一〇(ホ)

いとゞ
一一・6　四(ホ)　四一・7　六六(ホ)
四一・11　六六(ハ)　一四〇・9　一六六(ハ)
一四七・1　一六六(ハ)　一四〇・11　一四四(ハ)
一〇五・5　一四一(ホ)

いとほしノ諸形
五七・12　八七(ハ)　七・9　一〇九(ホ)
一四〇・9　一一六(ハ)　一四〇・4　一六六(ハ)
一四一・7　一三九(ホ)　一五・13　一五九(ハ)

いどみす
いなぶ
いねるにも
○命だに(歌)
御所ともなりて
○いはひつる(歌)
いはゆる
いはれ
いはんや
いひ入る
いひ語らふ
いひなす
いひのだて
いひもていけば
いひをこづる
いふがひなき
いふ事なれば
いへど
家の子
いへばおろかなり
いへばさらなりや
今后の宮
今北の方
今の
○今はた少(歌)
今々も
いま〜し
いまさうじ(おはさうと参照)
いますがり
今少し
今は限りにて
○いまはとて(歌)
今はとて
今はと
今はのきざみ
今やう
いみじノ諸形
いもうと
いらなく
いる(浜)
色には見えず
色にいでて

う

うかべ立てゝ
うきたるやう
うく(納受)
うく(承服)
うけとる
うしろむ
有心者
うたてげ
うたてあり
うつくし
うつくしげさ
うつし(殿)
○うつせみは(歌)
うつゝ・・・
内
内やみ
内のお前
うち(接頭辞)—動詞
うちあぐ
うちいづ
うちくんず
うちさゝめく
念誦うちして
打ちたつ
うちつかふ
うちのたまふ
うち申しかく
うち殺る
打見入る
うちよむ
上(北ノ方)
うはぐむ
うまのはなむけ
○海ならず(歌)
うめく
うらうへに
うるさく
うるはしノ諸形

一四七・13　三六(10)　一四八・8　一四〇(四)
二〇九・14　四五(二)
うれしくも對面したるかな　五・8　四(10)
うれへ申す　七一・3　一〇六(六)
うゑ木　一四三・11　一三一(四)

え（漢字音ゑモ）

本文頁行　通鑑頁行　符

え（蔵）　一五一・9　一四二(四)
え・・・
えおはしまさず　一三・1　一六(二)
えさり難き　一四〇・10　一三六(一)
えこそ家らやなりしか　二六・13　一〇六(四)
えともかくも　二三六・6　二一六(六)
　二三六・7　二一六(一〇)
え渡らじ　一四四・9　一三三(八)
えもいはず（えもいはぬ）
五一・13　九六(二)
一六六・9　一三〇(七)
一六九・10　一三三(二)
一四六・5　一三三(二)
えせもの　一六九・11　一三一(四)
えさす　一六九・10　一三一(四)
○願長撰集（詩）
一六六・3　一三一
會のには　二六・3　一三一(四)
延喜　四二・5　六三(六)

お

本文頁行　通鑑頁行　符

老のけ　一六六・2　五五(九)
老のなみに　一三三・9　一二〇(八)
おいらかに　一三三・14　一三一(八)
思召しおきつ　一六一・2　九一(四)
思ひおきつ　一一七・9　一〇五(四)
おきつ・すきおく　一四二・11　一三五(四)
隨樹　一六九・11　一六六(四)
奥ゆかしき　四・6　一四(二)
おくれ奉り　一六・1　一四(四)
おこす　一四〇・1　一二〇(二)
おこたり……　一三・12　一一(二)
おこなひに　一四五・9　一二〇(二)
行（オコナヒ）　四六・6　六六(九)
おころ　六六・1　一〇〇(四)
おさる　九九・3　一一六(四)
おさる　六三・5　五四(四)
おしあてに　一四四・11　一二六(二)
おし返し　一六六・6　一一六(二)
おして　一三六・11　一一六(二)
おしとりて　四四・2　一二〇(四)
おそく内に參る　一四〇・4　一一一(四)
おそくあけれは　一六・1　一四(四)
○おそくとく（歌）
四四・7　五五
おそましき人　一一六・14　一〇四(二)
おそれ思ふ　四四・10　六三(二)

おちゐる

一三三・14　一九六(九)
一三五・2　一一六(四)
おとぎき　一四・8　一一一(五)
おとゝ
おとなしき　四四・12　一一四(一)
　八一・9　一一四(二)
　九一・7　一三五(五)
　一九・13　一七(八)
おとなび給ひ　一六・11　一一〇(四)
　一七・11　一一一(一)
○おとみやの（歌）
一四〇・7　一四一

おどろくし

一三六・11　五一(五)
一五五・1　一四四(一)
おどろかす　一四〇・6　一一〇(二)
驚きながら　一四〇・13　九六(四)

おどろく（目覺）

四六・11　七一(四)　九一・2　四一(四)
四五・7　一〇六(二)　一四〇・7　一〇六(五)
一一一・1　一五五(一一)
同じ心に　九九・3　一四四(二)
　一六六・9　一四四(四)
同じ程の　一四〇・8　一四〇(一〇)
同じものゝ　一六六・14　一一一(五)
おの〳〵　一一一・14　一四五(四)

おのづから

一四・13　五五(一)　四四・9　七一(四)
九・9　一四一(一)　一五五・1　一九九(一)
一一四・8　一五五(四)
おのづからの事　一四六・13　一一六(四)

おはさうじ（いまさうじ參照）
九六・7　一三五(一)　一五五・11　一二五(一)
おはしましあふ　一四・1　一三三(四)

おはしまさふ

一六〇・4　一二四(一一)
八一・8　九一・1　一五五(四)　一六〇・10　一三六(二)
一一一・14　一三三(四)
一六六・4　一一六(四)
おはします事　一一三・6　一五五(一〇)
おはします殿　一四三・11　一一六(四)

崇敬助動詞おはします

現れおはしまして　一四三・3　一三七(四)
つかせおはします　一四三・5　一一六(一)
捉出しおはします　一四四・14　一三一(四)
おびただしく　一六九・11　一〇六(四)
　一四七・5　一三三(二)
追のけさせ給ふべき　八六・7　一一三(四)

おぼえ

五一・12　七(一一)　九・8　一一一(四)
五五・1　九四(一)　一四〇・9　八一(八)
一七・11　九四(四)　一六・6　六六(一)
八一・4　一五五(一)　一一六・12　一一一(一一)
一四四・4　一三一(一)

大方

一九・3　四四(九)　四四・6　七(一)
九四・3　五二(一一)　五一・2　五五(四)
一六六・6　一〇〇(四)　一六・2　一一四(四)
八六・11　一一四(一)　九一・12　一四四(一一)
九一・3　一四四(八)　九一・10　一四六(六)
一一三・14　一六六(八)　一一九・10　一四七(六)

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook

大方には　二四・12　二三(四)
おほきおとゞ　二六・6　二七(七)
　　二八・8　二九(一)
多くは　六・5　四
おほけなさは　二八・11　三三(八)
おほしき事(雑)　一・5　一(六)
思しあまり　六・14　九(一)
思ひおく　三三・8　九三(一)
思しおく　二七・10　六五(三)
思しうつる　二二・1　一六六(八)
思しくづほる　七・2　一二四(一〇)
　　二六・13　二二八(一二)
おほしなる　六・12　九(六)
　　九・4　一四六(九)
思しはかる　二六・12　二四〇(四)
思しよる　九・14　一四四(四)
　　六・5　一〇六(三)
　　二六・7　一二〇(三)
おほす　一四・7　一四(一)
大路のみちかひも　六・14　九五(四)
おほつかなさ　二二・14　二三三(八)

おほづかなしノ諸形

　　八・14　三(一)
　　二二・8　一二(三)
　　三三・6　三三(一〇)
　　六・3　一九(三)
　　一〇・3　一五(三)
大殿ごもる　二二・8　一七六(一)
大宮　六・4　九五(九)

おほやけ

　　二・8　一六(一)
　　三三・6　四九(八)
　　四・9　六六(五)　九・13　一五(八)
　　九・14　一四四(五)　四・3　一四〇(八)
　　一六・4　一九四(三)
公ざま　一六・6　一九九(八)
おほやけ祭　一六・10　一九四(九)
おほやけわたくし　八・13　一六(三)

おぼゆ(語ル・イフ)

　　四・4　五(八)　四・5　五(九)
　　一三・6　一八(三)　四・8　四四(一)
おほゆ　六・6　一〇六(四)
　　九・2　一二七(九)
おほえぬ……　一九・9　一三三(九)
おほよそ　一九・2　一九五(三)
おほらかに　二・5　一五五(九)
おほろげ　一七・11　一六(九)
　　一七・12　一九九(一)　四九・12　一六六(八)
　　五・8　八(四)　九・2　一六六(八)
　　一四・12　一三一(九)　一六・1　一六三(四)
(内の)お前　七・4　一一九(九)
(院の)お前　一〇六・6　一四五(三)
御前の作文　一三三・4　一三三(九)
おもだたし　一九・1　一三一(九)
おもておかぎ方なく　一四・7　一三六(三)
おもておこし　六・8　九(一)
面の色たがふ心地　一三・10　一三(一)
おもては優にて　一九・12　一三四(一四)
おもてふせて　一六・14　一三三(八)
おもと　一三・5　一五五(九)
　　六・10　一〇六(四)
思はずなる　一四・12　一四〇(九)
おもひ(四)　三三・1　一三一(一)
思ひおきつ　六・2　九(四)
思ひかけず　一六・12　一七〇(三)
思ひしる　一四・4　一三三(八)
　　一二・12　一一六(四)
思ひつゞくるに　六・14　一〇〇(一一)
思ひなす　一六・8　一九九(一〇)
思ひやりなき　六・3　一〇〇(一八)
およすげたり　三六・14　一三一(四)
およばぬ心　一七・11　一四(三)
および　一七・11　一四(一六)

おろか

　　三・1　一四四(一三)
　　六・8　一一三(一)
　　一四・12　一三四(一四)
御族思ひ　六・14　一〇一(七)
御とのあぶら　一〇・1　一四〇(三)
御殿ごもり入る　一〇・11・12　一四〇(六)
御まへの事　一二・14　一三一(九)
　　一三・13　一四一(一)

か(漢字音くわモ)

本文頁　行　通鑑頁　符

　　一六・1　一六六(三)
　　三六・10　一六五(四)
かう申すことは　四・13　一四(四)
かうぶり給はす　三一・7　一九九(三)
かがし　九・7　一四一(四)
鎖をかく　一四・10　一一六(四)
かくらでもあらばや　六・12　九一(四)
かくらであらばや　一四・8　一四〇(一一)
かくらましやは　四・12　一四(三)
かくる(ヨリカヘル)　一一六・10　一一一(六)
　　一二六・14　一二五(四)
かくれは　一四・5　一三五(八)
かきあはせ　二一四・11　一三五(八)
かきおろす　九・9　八(八)
かき拂ひ　六・5　一六六(四)
かきたれ　一四・12　一四四(九)
かぎり(……のかぎり)(雑)　一六・1　一四四(三)
限りあれば　一四・2　一三三(九)
加供　一六・5　一九九(三)
かく(寝ネル)　一七・4　一九五(四)
かくしもやはおはします　一三・13　一三(八)
かくて　一九・10　一三八(四)
　　一四・10　一九九(三)
　　一六・13　一九四(一)
　　四・5　七(四)
　　六・8　一三(四)
　　三一・12　一三(四)
かけらず　七・6　一一九(九)
過差　四・5・6　六(四)
　　六・1　一三六(三)
かし　四・6　六(四)
　　七・11　一一六(六)
　　一〇六・1　一四六(九)
　　一四・11　一三五(九)
　　六・6　一一六(四)
……かしな　六・6　一〇六(一一)
かしこしノ諸形

　　四・11　六(四)　一六・10　一四一(四)
　　一七・8　一四(一)　一七・2　一五(四)
　　六・10　一〇一(一)　七・6　一一〇(九)

一三・1　一五五（二）
一五・7　一五六（四）
一九・2　三四（六）
二二・3　三四（六）
かしこまり申す
かしこまり
かしこまり
五六・6　7　三一（六）
かしこまる
五六・6　7　二六（六）
かしづく
かしづきもの
敷のまゝに
かぞへて
かた（紙）
かた（型）
かたぐ
かたぐに
三六・5　四（六）
六五・13　三五（七）
方ぎまに
かたじけなし ノ諸形
三四・14　八（七）
一七・12　一四（四）
四六・12　六五（四）
一七・1　一四（四）
かたじけなげ
かたちあり
かたな
かた（用途）
かた（ヘは（既分）
一五・8　三四（一）
かたはらいたし ノ諸形
四四・9　六六（三）
一五・7　二五（四）
かたほに
かたみに
かたらひとる
語らふ
かち（接尾辭）
人がち
かちより
かつ〳〵
かづく
かつは
かどくし
勧雷（カドウ）
……がな
かなかく
かなしうす
かなしがる
かなづ
必ず
肩がね
かねては
かねて
かは（終助詞）
かは
かはかりの
かはらかに
愛らぬ姿
かはあり
かひぐし
かへりみ
かへりみあり
かへりみ
かへりみる
顔けしき
かまへて
かみ（雷）
かみ
宿から
から思さる
カンドウ
五六・8　一四（二）
一四・12　三四（四）
五六・12　六六（六）
一三・5　一〇〇（四）
一四・10　一九（一）
一四・3　一九（四）
一五・6　三四（四）
一五・12　三四（四）
一〇一・13　一六（六）
四・14　五五（六）
一四・13　一四（四）
六六・2　四（四）
一四・2　三九（六）
一五・11　一四（一）
一〇五・9　三六（四）
一六・3　一四（一）
一四・7　一五五（四）
一六・9　一五五（四）
八・1　一四（一）
一四・8　八六（一）
四・4　四（四）
一四・12　三一（一）
四・9　六四（一）
一六・6　一〇一（一）
一〇一・5　一五（六）
一四・9　10　四（四）
五・2　一四六（四）
亦かるべき
からしノ諸形
九・12　一四一（九）
一四・11　一四一（七）
一四・9　一四一（七）
一四・5　一四一（四）
一六・13　三四（一）
感ずノ諸形
一六・5　三五（三）
三五・11　四（四）
四・3　一四（一）
一六・8　一四（六）
一四・14　一四（六）
四・13　五五（六）
一六・13　三四（三）
一四・8　一四（四）
一六・7　三五（六）
一四・14　三四（四）
官のつかさ
幹了
願ず
勅雷
さ
きかれど
聞きしり
ききなさる
聞しめしあはす
聞ゆノ諸形
一四・2　一四六（四）
本文頁　行　通鑑頁　符
一五一・1　一四一（一）
一四・2　一五一（四）
一四・12　一五一（二）
四・10　六（四）
一四・6　七（四）　三・12　三（三）

交8　九(巻)　六10　一六(巻)
一五・11　二四(巻)　一五・3　二六(巻)
一五・14　三八(巻)
居がね
きざみ
吉左右
吉さう
所縁
きたなきもの
北野
きは
一七・12 13　一三(巻)
一七・7　一七(巻)
三二・9　三五(巻)
一五・14　八(巻)
四五・13　六(巻)
四・9　六(巻)
一九・9　三四(巻)

極めたる
五・1　九(巻)　九・6　一六(巻)
三四・14　四五(巻)
きはめていとよし
○君が住む(歌)
七・5　一三(巻)
五・14　巻
きおむ
興あるものに思して
一五・8　一四(巻)
一五・8　四五(巻)
興言し遊び
きやう〳〵なる
一一・9　六(巻)
一六・10　四二(巻)
輕々に
一五・1　二一(巻)
きやうぎくに
一九・6　四五(巻)
行事
一九・7　四四(巻)
二二・11　五二(巻)
一四・6　一六(巻)
一四・11　四五(巻)
一九・6　三五(巻)
一九・4　一六(巻)
一九・3　二六(巻)
一六・10　二八(巻)
一六・8　三三(巻)
一四・13　三六(巻)
一六・3　二六(巻)

○去年今夜(詩)　三七・10　四(巻)
きよよはるノ諸形
四・13　七二(巻)　四・3　八(巻)
一四・3　四一(巻)
きよ〳〵と
一二・12 13　三五(巻)
きらめくノ諸形
九・7　一四(巻)　一四・13　一三(巻)
一四・2　三六(巻)
きらきらかに
一四・14　三六(巻)
きりめ
三八・5　三四(巻)

く

具すノ諸形

本文頁	行	通釋頁	符
四・5	三八(巻)		
一四・8	一四(巻)	九・10	一三(巻)
二二・6	三五(巻)	一四・3	一九(巻)
		二二・6	三五(巻)
		三六・6	八(巻)
		一四・3	一九(巻)
		一四・13	三九(巻)
		一四・6	六(巻)
		一四・14	三六(巻)
		三五・14	八(巻)
		一九・7	三七(巻)
		三・12	一(巻)
		一四・14	一九(一)
		一四・10	三七(巻)
		六・4	一四(巻)
		七・13	八(巻)

くすぼれ給ふ
功德
國讓
組人(クミヒ)
くもの子を風の
○くもりなき(歌)
○雲井まで(歌)
くやし
苦しき
苦しきもの
車宿り
くるめき
○くれ竹の(歌)
○くろはとく(歌)
四六・3 4　六(巻)
一四・4　一四(巻)
一四・1　一六(一)
九・11　一四(巻)
一六・1　一八
八・9　一五

け

本文頁	行	通釋頁	符
二一・5	一五(八)		

けに奇給ふ御夜
け(故)
四・11　六(九)　八・4　一四(巻)
二二・14　一七(一)　一三・14　一四(巻)
一四・3　三四(六)　一三・7　三三(二)
一六・1　一四(六)
一四・2　三六(七)
六・4　九(七)
警す
經營す
けうに見ゆべき事ならねど
一六・6　六(巻)
けうらに
三・1　一四(巻)
一四・2　三六(七)
下格子
一三・11　一六(一)
けさす
一五・14　一四(巻)
一六・11　一七(七)
けざやかに
けしう候はぬ
二・12　三(六)
けしうはあらず
一八・4　一四(六)
二八・5　三五(一)
九・5　一四(六)
九・10　三(六)
けしからぬ樣
けしきある事
けしき覺ゆ
一六・4　一四(六)

煙色だづ
四・12　六(巻)
けしきはかり
一三・10　三四(六)
器に
一四・3　一六(巻)
けさうじ給ふ
六・9　一六(一)
一六・7　三六(巻)
惱悩しすごし
九・6　四(巻)
けちえん
九・5　四二(巻)
結緣
三・3　三二(巻)
けぢめにしるき事
一九・4　一四(六)

げに
一五・14　三(巻)
げにいかに
げにさもと
六・13　九(六)
げにも
八・6　一三(巻)
げにさもや
一四・11　三(巻)
げにくし
一六・10　八(九)
げにくき顏
一六・1　三三(巻)
○げにやげに(歌)
一六・5　一四(巻)
けやけき
二・6　一四(巻)
二四・11　三五(六)

今日
五・12　六(七)　一九・8　一四(巻)
一四・14　一三(巻)
下臈なれども都ほとり(謎)
一・13　三(往)
下臈
三・10　四(六)
一六・10　一四(巻)
堅固の
一六・9　三六(一)

こ

朝にて　朝もなく　柑子　困ず　高欄　荒涼して　御感侍る　御器　こゝら　心もそこなはる　心もそこなふ　心ももたがふ　こゝら　心あやまち　心　心うしノ諸形　心得ぬ様　心おきて　心おく　心おごり　心おごりなむする　心おこる　心おもむけ　心おもなく　心苦し　心けがしに　心さがなく　心ざま　心知らざらむ人　心だましひ　心づかひは仕うまつれ　心づから　心づきなう　心強く思召し　心の限り　心の本性　心にくき　心にもあらず　心ばせ　心はへ　心まうけ　心もなきまで　心もとなし諸形　心もちゐ　心やまし　心ゆく　御前（ゴセン）　こそ　月日こそは照し給はめ　こそは侍るなれ　……程こそあれ　口をしさこそ　古代なり　古體　こちたく　○こちふかば（歌）　後朝の文　こちよりては　乞食　事いできなむず　事うるはしう　ことおろかなりや　事限りあれば　こと事　ことことならず　殊の外　殊の外なるにて　詞　ことやう　ことわりとて　……ことを　事をはやす　ことづけて　○こと夏（歌）　○ことにいでて（歌）　事にがくなりぬ　事に事をつけつゝ　事にふれて　ことに見ゆる　事にも侍らず　事のさま　事のなさけ　ことごとに　ことさむ　事しえたり　○ことしはかりは（歌）　ことしもあれ　ことしもそれに巻らせ給はむやうに　ことすゑ　この（只來）　このかみ　この世ならず侍る　ことし　ことはき物の怪　○ことひしきは（歌）

こまつぶり　九七・8　一八〇(四)
こまやかに結ぶ　二〇〇・2　二三二(二)　二八・7　二五三(八)

こよなく・こよなう

一・1　一(一)　二・2　二(二)　五・11　九(四)　一三・3　二二(八)　一三・4　二二(八)　一六・11　二四八(八)　二一・4　一六(一)　一六・9　一二五(一)　一七・12　一五五(八)　九・5　二二(八)　一八・2　一五八(八)　二・9　九(一)　二五・11　一四五(八)　一六・14　一五三(八)

こよなく　こよなく　こよなく　こよなう　こよなく　こもり徳人　御覽じ入る　御覽じそめられ　御覽じつけらる　これも

糟糠

さ

	本文頁	行	通總符
さきらめけど	一五・7	一五	(八)
さ思ふことなり	四九・3	一四六	(八)
さ思ふらむ	一五六・6	二八	(二)
さあらぬ	六二・5	九二	(一)
さらむ後には	一八九・9	二二一	(八)
宰相	一六・11	一五	(八)

さいはひ　九一・5　一二四(八)

さうぐしノ諸形

一五六・3　二二八(八)　一四〇・11　一四六(八)　一六六・1　一四四(八)

ざえ　一四・14　四八(一)　一三・2　二二(四)　一三・2　二二(一)　一六・9　一四二(一)　一四・13　一三一(八)　一六六・13　一四六(八)　一六六・13　一四六(八)　一四・13　一三一(一)　一五・13　一三二(一)　一五・11　九(八)　一三・4　一二四(八)　一三・12　一二二(一)

さこそは侍るべかんめれ　一三・9　一四九(一)　一八・1　一八八(一)　一三・2　一四五(八)　一八・11　一二二(八)　一六・9　一五六(一)

佐文
佐文す
さがな者
さがな目
さかしだつ
さかしら侍
さえたる夜
さえがる
ざえ
うらさめく
うらさめく
さしあたりたる事
さし出で給ふ
さし騒れたらむ
さすがなるけつきて

さすがに　四・12　六(八)　四・2　一四(四)　六・4　一四(八)　七・9　一四(八)　一六・11　一九(八)　一八・13　一二(四)　一九・13　二八(四)　一六・2　二八(四)　一四・8　一四(八)　一六・5　一五六(四)　一六・11　一五(四)

さすがに侍るべかんめれ
さすがなるけつきて
さすがに
さすがに
さすがに
さすがに
さすがに
さすがに
さすがに侍る

さだ
定め
さだめのしるし
五月にさへ生れて

さて

九・9　二(四)　一三・5　一四五(一)　一五六・12　九五(八)　一八・2　一四四(一)　一八・10　一四〇(一)　一八・8　一四一(一)　一四七・8　一四五(八)　一四七・13　一四四(一)

さてあるべき事ならねば
さておはしましける
さてぞかし
さてなむ
さてはかりぞ
さては
さても
さても
さてもあり
さてもありぬべき事なり

さながら

九・3　一二(四)　一四五・2　一四一(四)　一四・11　一二六(八)　一三・13　一四四(一)　一四五・7　一三二(一)

さのみこそ

一四・2　一四八(四)　一六・3　一四五(四)　一四・13　一四四(八)

さは

○さは遠く(歌)

さはいへど

一四六・4　一四〇(四)

さはかりの
さはれ

さも

さもあること
さもあらぬ事
さもなかりし事
さも侍らず

更なり

七・10　一四九(八)　七・8　一四一(八)　一四・14　四六(一)　一四・11　一四一(四)　一四四・1　一四〇(四)　一四四・1　一四二(四)　一四四・14　一四二(四)

さも
さも
さも
さも
さも

ざま〳〵なること
さみだれも過ぎて

候ふノ諸形

九・5　一四二(四)　一四・6　一四八(四)　一四・1　一四四(一)　一四・6　一四八(四)　一三・10　二二四(一)　一四・6　一四八(四)

作法

一四・3　一四五(四)　一四・14　一四五(一)　九・2　一四六(四)　一四・1　一四二(八)

さはかりの
さはれ

さも
さもあること
さもあらぬ事
さもなかりし事
さも侍らず

九・3　一二四(八)　九・14　一四六(一)　一四・12　二二九(八)　一四・11　一四一(八)　一四・9　一四〇(一)　九・6　九(八)　一八・8　一四九(八)

さは
○さは遠く(歌)

さはいへど

一四六・4　一四〇(四)

さはかりの
さはれ

さも
さもあること
さもあらぬ事
さもなかりし事
さも侍らず

更なり

七・10　一四九(八)　七・8　一四一(四)　一四・14　四六(一)　一四・11　一四一(四)　一四四・1　一四〇(四)　一四四・1　一四二(四)　一四四・14　一四二(四)

さも
さも
さも
さも
さも

ざま〳〵なること
さみだれも過ぎて

候ふノ諸形

九・5　一四二(四)　一四・6　一四八(四)　一四・1　一四四(一)　一四・6　一四八(四)　一三・10　二二四(一)　一四・6　一四八(四)

作法

一四・3　一四五(四)　一四・14　一四五(一)　九・2　一四六(四)　一四・1　一四二(八)

さらなりや
　五・12　九六(10)　六・14　一〇一(八)
　七・9　一二五(四)
さらざらましかは
　七・14　一三一(四)　九・14　一三一(四)
さらでもありぬべく
　九・10　一四二(九)　一〇・10　一四二(九)
さらでもありなむ
　一〇・3　一〇一(一)　一〇・3　一〇一(一)
さらにもあらず
　一〇・10　一三(一)　一〇・10　一三(一)
　一〇・12　一四二(八)　一〇・12　一四二(八)
さらぬだに
　一〇・1　一二九(四)　一〇・1　一二九(四)
○さらぬだに(歌)
　一〇〇・6　一三三　一〇〇・6　一三三
さらぬ事
　八・13　一一四(九)　八・13　一一四(九)
さらぬ人
　一〇六・7　一〇九(四)　一〇六・7　一〇九(四)
さらぬも
　六・6　一〇〇(八)　六・6　一〇〇(八)
さりげなく
　一三六・4　一六六(一)　一三六・4　一六六(一)
さりとて
　一〇〇・9　一〇六(八)　一〇〇・9　一〇六(八)
　九・10　一四二(九)　九・10　一四二(九)
　八・14　一二六(一)　八・14　一二六(一)

さりとも・さりともと
　四・8　六(一)　五・5　七(一)
　一〇・6　一七(四)　一五・8　一五(一)
　一〇・11　九(一)　一〇・9　一〇一(八)
　六・5　一〇四(一一)　一一・13　一〇六(一三)
　一〇六・6　一七〇(八)　一一五・1　一六(九)
　一三・14　一三一(四)　一四・8　一三七(四)
　一四・13　一六六(四)　一四・4　一三六(一〇)
　一五六・10　一六四(一)　一三・3　一六四(四)
　さりや　一八・6　一七九(一)

さりあへぬ
　一四四・5　一三三(四)
さりがたき
　一四〇・10　一三六(一)

さること
さること思して
　一六・4　一〇一(一三)
さる事には侍れど
　一六・7　一〇六(四)
さる事なり
　一六六・3　一六七(四)
　一六六・1　一三三(一)
さることとあり
　一五・5　九(八)
さるものにて
　一三・13　一七(一〇)

さるは
　一五・6　九(九)　一六・6　一〇(一)
　四・4　一六(四)　一六・8　一三(八)
　一一・1　一六(四)　一一・7　一一三(一一)
　一四〇・5　一四一(一)　一〇〇・1　一三一(八)
　一六六・2　一七七(一)

さるべき
さるべきにやおはしむ
　一五・2　九(四)
さるべきとはいひながら
　一九・12　一六(八)
　13
さるべき御装
　一六・1　一五三(八)
さるべきなり
　一六・5　一八〇(四)
さるべきにや
　一九・12　一三一(四)
さるべきにこそ
　一二六・3　一四〇(四)
さるべき事
　一五・9　一七(一一)
　10
さるべき人々
　八〇・10　一一四(四)
さるべき人々
　一四・2　一〇一(八)
さるべき人
　一四・11　一六一(四)
　一四〇・3　一〇一(八)
さるべき物
　一四〇・8　一四一(四)
　一四〇・14　一五三(四)
　一四〇・3　一八(一〇)

さるべくあるやうある事を
　一四・2　一六六(一〇)
さるべく契り
　一五・12　一九(一)
　一七・8　一一五(一)
さるまじき
　一七・1　一一七(四)
されどなほ
　一五・3　一七七(四)
されは
　一一・5　一五三(八)
　一四・14　一六〇(八)
されはよ
　一一・4　一五七(八)
されをかしく
　一四・1　一二四(四)
三昧行ふ
　一六・12　一六四(八)

し（漢字音せ）

（うゝぢ等）

本文	行	頭語符
真		

し(強辭)
　一三・6　四(四)
しあり寺給ふ
　一〇七・8　一四一(四)
しえたり
　一〇・10　一六六(一〇)
しか(副)
　一六・7　一四四(四)
しか思す
　一一三・2　一九六(一四)
　一一三・8,　一九七(一四)
しかきこしめさる
　一九・12　一九六
○しかはかり(歌)
　一六・1　一四四(八)
職掌
　九・11　一四四(一)
　九・3　一九六
○時雨とは(歌)
しかるべきにやありけむ
　六・11　九(四)
　一五・11　七(一一)
次第
　一四・4　一三(八)
次第のさゝに
　一五・13　一四六(一)

したゝかに
　七・5　一一〇(八)
下には
　一一〇・4　一四六(四)
下給
　一六六・12　一三六(一〇)
仕
　九・1　一四〇(一一)
　四・8　六(一)

しつらひ
　一一・10　一六(一)
　一六六・5　一六(一)
人して
　七・12　一〇七(一一)
しどけなく
　一四・2　一六六(八)
　九・8　一三四(九)
しな(歌)
　九・12　一四六(一)
　一〇〇・10　一六(八)
　一六六・10　一一六(八)
しなす
　一六六・2　一三三(四)
死にせじ
しはしはかりおほしなげきし
　一一三・10　一九(一)
しはぶき病
　一一七・1　一三九(一四)
しぶ〳〵げに
　一一六・9　一四四(八)
しほたる
　一一七・13　一四一(一)
しほたる
　一一七・1　一三四(八)
しほたる
　一一六・14　一三六(一)
事しもあれ
　一四・9　一三四(四)

しもこそ
それしもこそ
　一一六・4　一三三(八)
しもこそあれ
　一一四・13　一三九(四)
人しもこそあれ
　一一六・13　一三九(八)
所司
　四・8　六(一)
少々の事
　一一七・6　一三三(四)
少々の
　一一七・4　一三三(四)

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook